

## たすけたい気もちと強いゆう気

山口県 高水小学校      3年 坂本 泰治

ぼくは、たすけたい気もちとゆう気について考えました。

ぼくが、2年生の3学期、下校中に草むらの中でたおれてハンカチをふっているおじいさんを見つけました。ぼくが、

「だいじょうぶですか。どうしたんですか。」

と声をかけると、おじいさんはくるしそうに小さな声で、

「きゅう急車をよんでくれ。」

と、くりかえして言いました。

ぼくは、人がたおれているのをはじめて見たのでこわかったけれど、そのままにしておくと死んでしまうかもしれないと思って、たすけをよびにいきました。

ぼくは、さいしょは、だれの家でもいいからたすけをよぼうと思ったけれど、ドキドキしていたので知っている人の家に行きました。

けれど、3けん行ってもるすだったので、自分の家まで帰っておばあちゃんに話しました。いっしょうけんめい走ったけれど、おじいさんを見つけてから30分くらいたっていました。

おばあちゃんと、おじいさんのところまで行って、近くの人にきゅう急車をよんでもらいました。

ぼくは、おじいさんがたすけが来るまでの間、どんな思いをしたか考えました。おじいさんにとって30分はとても長かったと思います。おじいさんは、早くたすけがきてほしいと、ふあんに思っていたと思います。

たすけようというゆう気はあったけれど、知らない人の家にたすけをよびに行くゆう気はありませんでした。もっとゆう気を出して、たすけをよぶことができたなら、もう少し早くおじいさんをたすけることができたと思います。

ぼくはこのことで、二つの大切なことに気づきました。

1つ目は、たすけたい気もちをもつことです。たすけたい気もちは、こまっている人の気持ちを考えると、大きくなります。

2つ目は、強いゆう気をもつことです。強いゆう気を出せば、ドキドキしていても、はずかしい気もちがあっても、だれかをたすけることができます。

ぼくは、人の役に立てる人になりたいです。人の役に立てたら、ぼくはうれしいです。